

「金浦の歩み」第二弾の編集につきましては、昨年4月の定例会議で提案・承認していただき以来少しずつですが、写真・資料等の提供に感謝いたします。厚生労働省の「健康日本21」の年齢別の定義によりますと、幼年0～4歳、少年5～14歳、青年15～24歳、壮年25～44歳、中年45～64歳、高年65歳以上となっています。それぞれに過ごした時代には思い出深い記憶が残っています。原風景は、いつまでも色あせることなく脳裏に焼き付いています。そんな喜怒哀楽の一端を綴っていただけませんか。読み手にすれば、その時代にふれながら思いを馳せたり、自分と重ね合わせてみたり、感じたりすることがあると思います。気楽に気軽に書いてみてください。以下の要項によってお願いします。



【 応 募 要 項 】

- 文の内容 特に限定しません。思い出に残っている内容で結構です。
- 字数 字数は最大1200字（原稿用紙400字詰2枚）までとしますが、短くても結構です。
- 用紙 原稿用紙かそれ以外でも結構です。（例：広告の裏・便箋）・
- 体裁 名前は書いても書かなくてもよい・書かない場合は年代と性別は書く題をつける。文章内容の時代を明記する（例：昭和30年代）
- 備考 誤字・脱字や文章内容の不備や読みづらい部分は校正をお願いする場合があります。
- 締め切り 令和3年3月末 ○提出先 編集者（波多野富則）・区役員
- 内容例 ・村での遊びやできごと・家の手伝いや衣食住について・学校の様子・身の回りの出来事・楽しい、つらい、悲しい、うれしい思い出・幼、少、青、壮、高年時代の思い出・世の中の出来事・自分の仕事のこと・これから先のことや若い人に伝えておきたいこと・その他思い出として残っている事柄 ☆写真・資料・口頭での思い出話などお願いします

編集者の例文 「運動会の思い出アラカルト」 昭和30年代・男性

運動会にまつわる思い出がいくつかある。分校の4年生のときは本校まで歩いて練習に通っていた。本校の同学年女子とペアでする演技があり、手を繋ぐのをためらっていると彼女は当たり前のように平気で手を繋いでくれた。9月の1ヶ月は練習して本番の運動会は10月だった。休憩時間に紫色っぽい飲物が出された。今思うとグレープジュースだったと思う。珍しくとてもおいしかった。5年生の時は組体操のピラミッドの土台だったが、背中にでき物ができて上に乗る子の膝が当たって痛いので場所を変わってもらった。運動会当日の昼食時、一人だけ食事の待ちぼうけで、格好が悪いので校舎の中で隠れるようにしていた。母親をねたましくも思った。かなり遅くなって母親が到着した。聞けば、蚕を飼っていて桑やりが忙しくて手が離せなかったようだ。6年生の時には、父親が育友会の役員をしていたように思うが、競争遊戯で「松の廊下」に出場し、引きずるような長い袴に見立てたドンゴロスをはいては走ろうとするが、要領が悪くて悪銭苦闘していたのを覚えている。母親がしばらくの間、思い出し笑いをしていた姿が目につく。



